

関西の都市のかたちと都市計画 制度から計画へ

神戸芸術工科大学
小浦久子

■ 都市とは・・・？

都市計画区域：

中心の市街地を含み、自然的・社会的条件、人口、土地利用、交通量等に関する現況及び推移を勘案して、「一体の都市」として総合的に整備・開発・保全する必要がある区域

→ 「一体の都市」とは何か？

広域都市計画区域：複数の行政区域が含まれる

→ 都道府県：都市計画区域マスタープラン

市町村：都市MP・都市計画決定の多くが分権されている

→ 「都市」を計画する主体とは？

基礎自治体 ≠ 「一体の都市」 ≠ 都市？

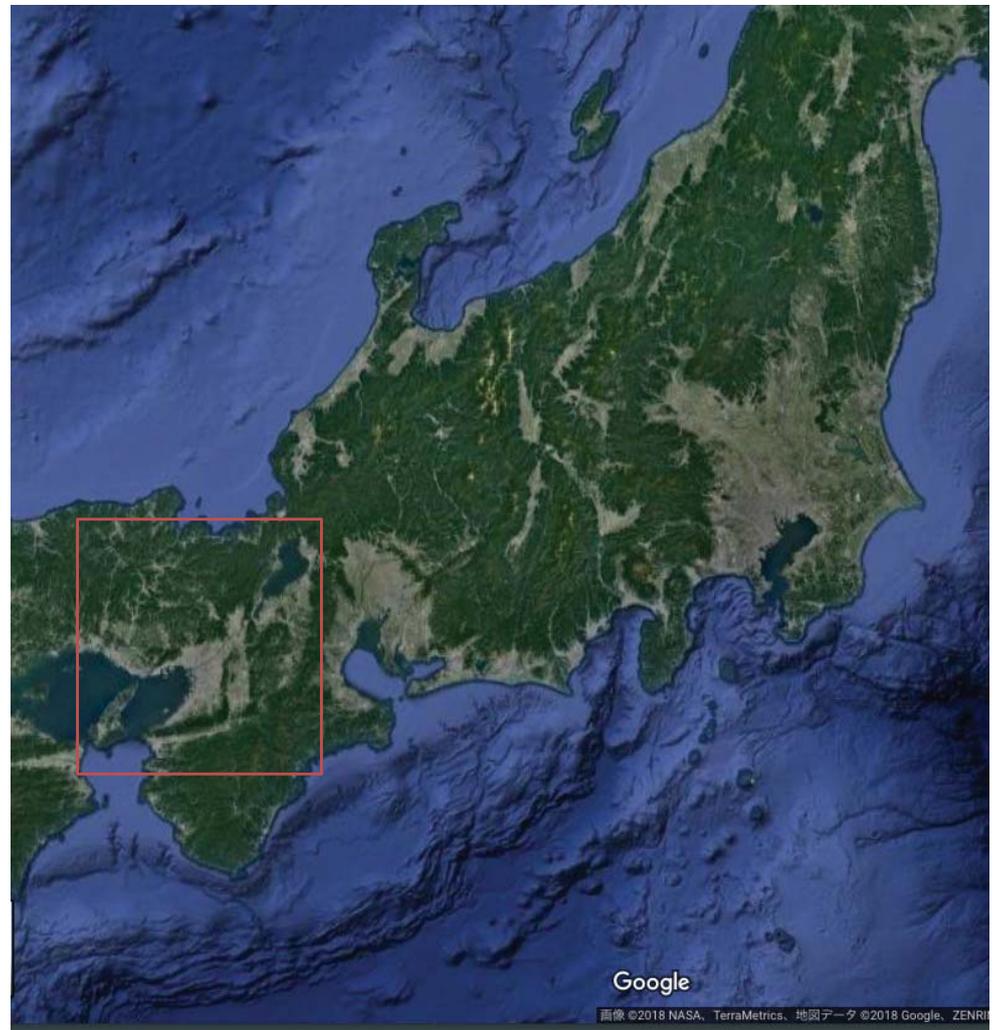
→ 「都市」はどのように想定され、都市計画は何を計画するのか

→ 区域区分は、何を設定しているのか？

区域区分により市街地の外側の開発抑制

では、市街化区域（用途指定）が「都市」なのか

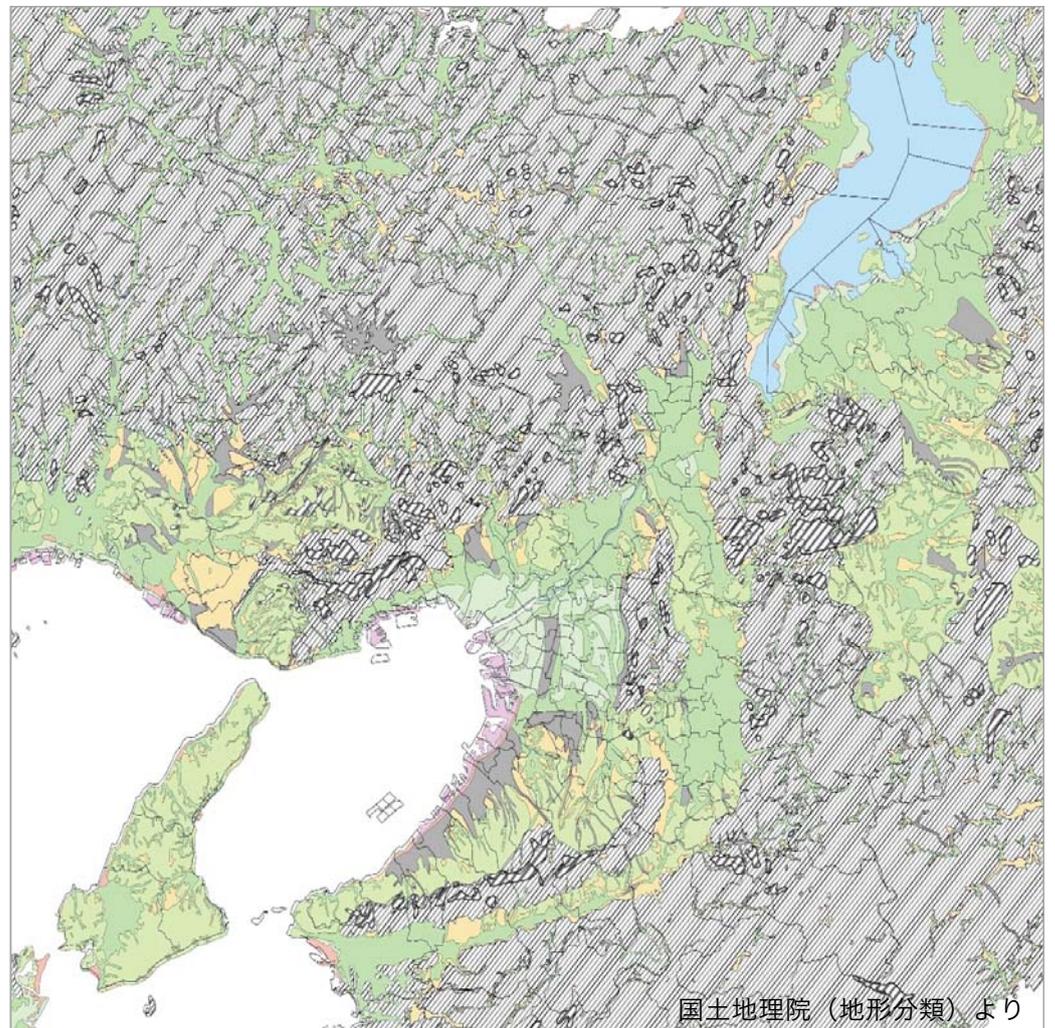
関西圏
可住地は小さい



関西圏
地形

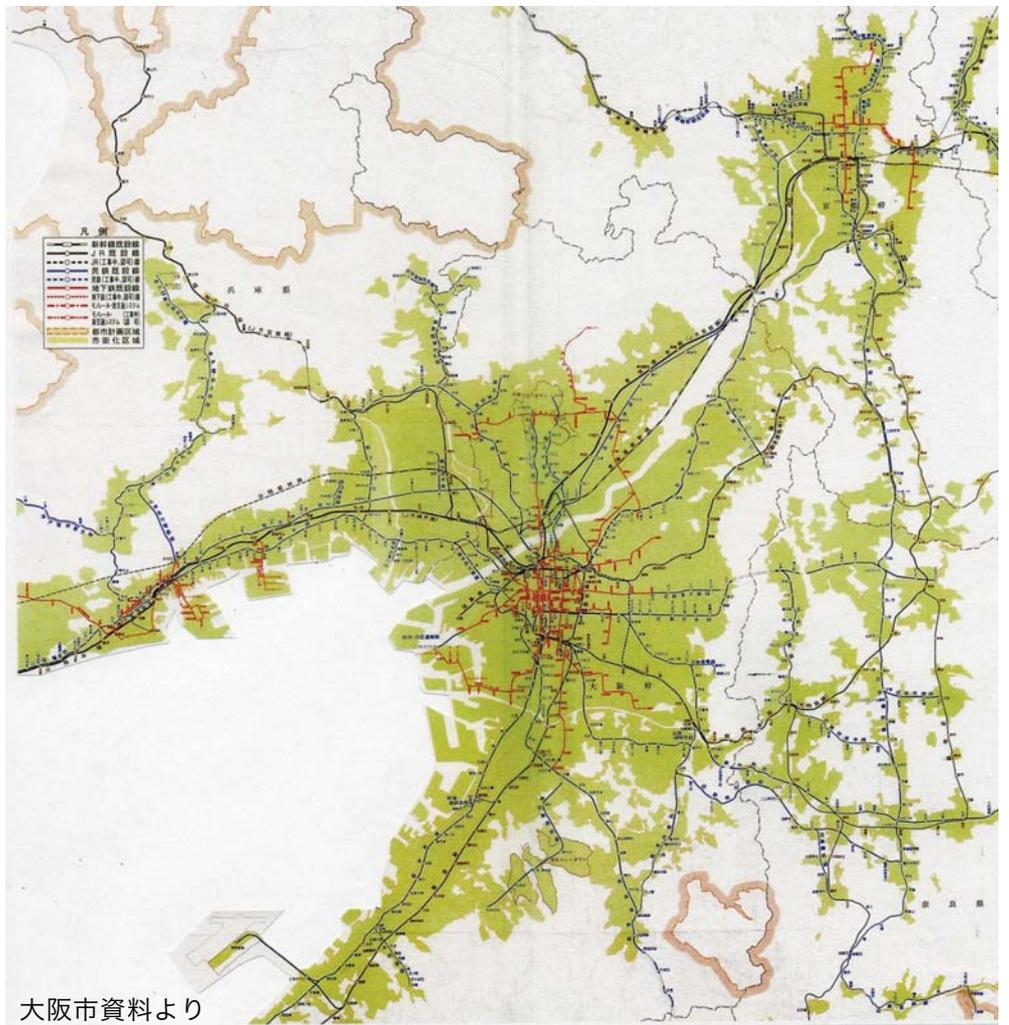
凡例

	<その他の値すべて>
	三角洲 干潟及び湿性生態平野
	丘陵地急斜面及び緩斜面
	低立台地
	埋立地
	山地急斜面
	山地緩斜面
	急斜面の扇状地
	扇状地及び谷底平野
	水面
	泥炭地
	海岩台地
	火山地急斜面
	火山地泥流地形
	火山地火山緩斜面
	火山灰砂台地
	石灰岩台地
	砂丘 潟湖及び砂州
	砂礫台地及び岩石台地

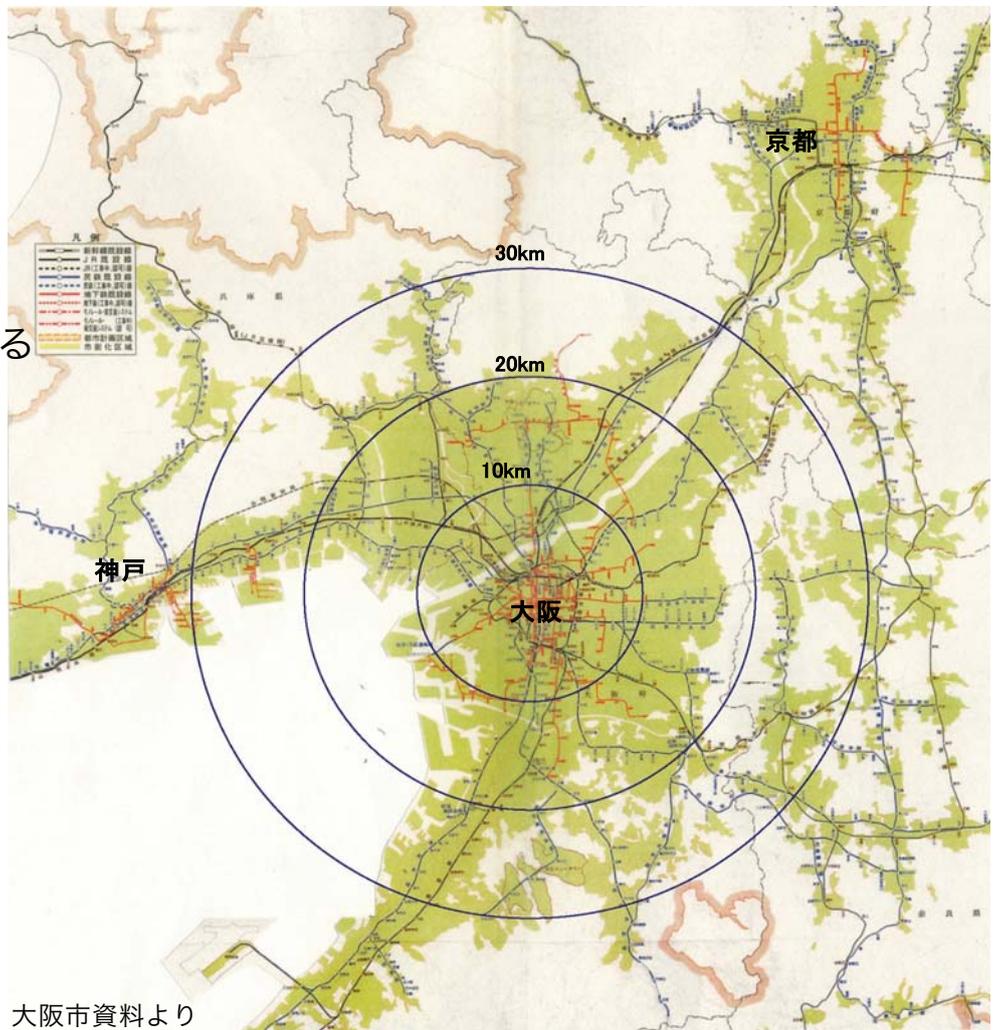


国土地理院（地形分類）より

関西圏の
市街化地区
山麓まで広がる
市街地は連担



関西圏の
市街化地区
地形により
市街地の拡大が止まる
市街地は連担し、
都市のかたちは
見えない
大阪・京都・神戸
都市計画区域が
都市なのか？



■ 都市は形成できたのか？

区域区分：市街化区域と市街化調整区域の区分

既に市街地が拡大し、その後も成長拡大を期待していた時期に、
何を目標に開発規制をしようとしたのか

→ 目標は都市の計画的拡大成長だった・・・？

このとき、都市計画区域が「一体の都市」ならば
市街化調整区域も都市？（特定保留区域）

それとも、区域区分が「都市」域を設定するのか？

広域都市計画を広く指定している滋賀県

用途地域指定しているところは

→ 南部（大津・草津）の連担市街地 + 地域中心市街地

→ ひとつの都市計画区域内に複数の地域中心

→ 都市計画区域内に複数の都市があるのでは？

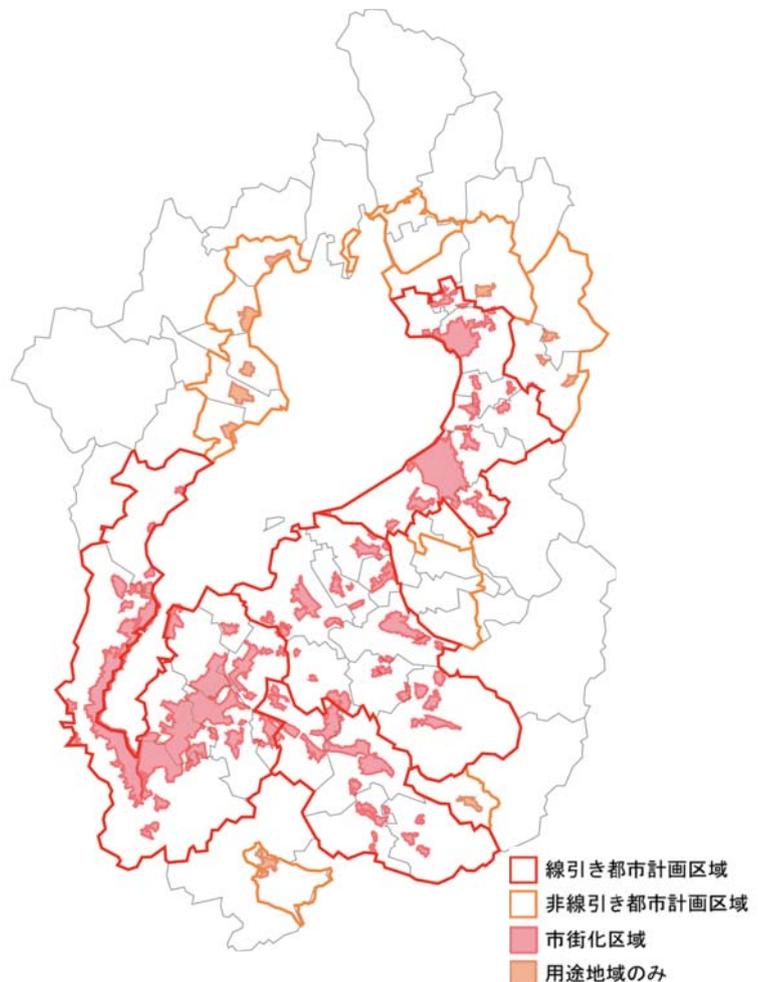
滋賀県の都市計画区域

広く都市計画区域指定

- ・ 山裾まで広がる
農振地域を広く含む
- ・ 琵琶湖を除く県土の59%
- ・ 12都市計画区域

平成の合併により
1つの行政区に
複数の都市計画区域

	広域再編	都計区域	線引	非線引用途	非線引	区域なし	区域外市街地
大津	大津市・志賀町	1	○				○
野洲	中主町・野洲町	1	○				
湖南	石部町・甲西町	○	2	○			
甲賀	水口町・甲南町 甲賀町・土山町 信楽町	○	3	○	○		○
東近江	八日市市・五箇荘町 永源寺町・愛東町 湖東町 能登川町・蒲生町	○	2	○		○	○
愛荘町	愛知川町・秦荘町	○	1			○	○
米原	山東町・伊吹町 米原市・近江町	○	2	○	○		○
長浜	長浜市・浅井町 びわ町	○	2	○	○		○
高島	マキノ町・今津町 新旭町・安曇川町 高島町・朽木村		1		○		○



■ 関西圏 都市のかたちは形成できたのか？

三都市の現在市街地の構成

大阪：歴史的市街地＋市街地拡張（工業化と市街地更新）

京都：山麓保全＋歴史的市街地＋南部開発地（工業化）

神戸：港湾都市＋近郊郊外住宅地（近代）＋計画開発地
（山、海へ行く）

→ 大阪市＝都市計画区域＝市街化区域（水面除く）

神戸市＝都市計画区域：市街化区域＝山麓まで＋開発地区

京都市＝都市計画区域外あり：市街化区域＝山麓まで

↓

*山麓は風致地区

地形が都市のかたちを決める？

＋

- ・事業のための計画（道路整備・面整備）
- ・計画的開発事業の計画（団地・埋立）

■ 関西圏 都市のかたちは形成できたのか？

三都市のかたち

大阪 歴史的市街地の中心性 ＋ 同心円状の市街地拡大
「連担市街地の中心」

京都 地形と生活文化により保全される歴史的市街地と南部開発地
「歴史的市街地と周辺市街地による一体の都市」

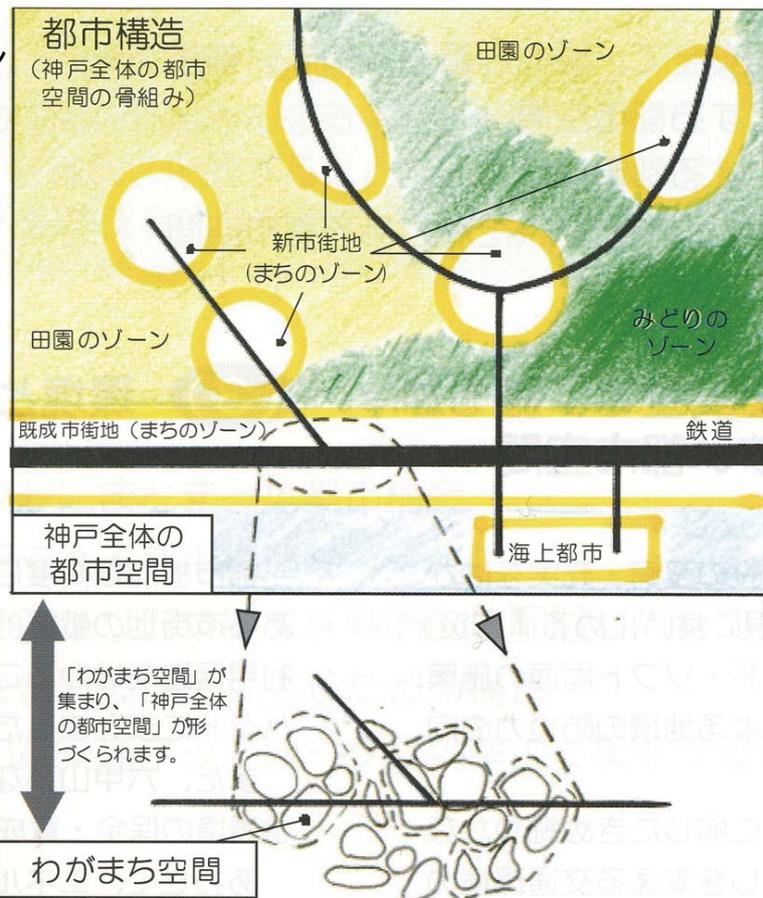
神戸 成り立ちと生業の異なる多様な居住環境のまちの集まり
「『まち』のモザイク都市」

→ 地区レベルの計画 → 「わがまち空間」

（神戸市都市計画マスタープラン：2011）

< 都市空間のイメージ図 >

神戸市
都市計画マスタープラン



「都市」と「まち」
2つのスケールをつなぐ

わがまち空間

■ 関西圏 都市のかたちは形成できたのか？

三都市の間の地域

- 阪神間地域 (東灘区含む) : 戦前的大阪郊外住宅地+集落から
戦前の耕地整理+戦災復興区画整理事業による市街化
事業がつくった市街地
→ 事業のための都市計画
- 大阪-京都の間の地域 : 農地・集落から市街化
戦後に急激に市街化→ 公共施設整備が追いつかない
関西圏の連担市街地を形成する
→ 開発のための開発許可・開発のための制度運用
市街化調整区域の開発 (+茨木市細街路計網画)
→ 連担市街地の中心は、駅? 公共施設集中地区?

■ 都市のかたちの再編のために

連担する市街地が粗密になってくる＋集落地の人口減少

→ 空き家・空き地・遊休地・休耕地

市街地の再編

→ 密度を集約する：コンパクト・アンド・ネットワーク

密度を下げる　：粗密ネットワークの効率化

市街地撤退　　：用途地域としての空地・自然地

これらは、都市のかたち（あり方）を構想すること

→ 土地利用型開発 から 空間更新・集約（空間計画）へ

開発（敷地・団地単位）を認めるしくみ（制度）は複雑に多様化した

開発の調整・誘導のための考え方を共有するための計画が必要

→ 変化をとらえ、評価し、調整・判断するしくみ